

2026 年度宮城学院女子大学 総合型選抜Ⅰ期

現代ビジネス学部現代ビジネス学科 論述試験

次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合により公表できません

出典：2025 年 7 月 18 日『河北新報 朝刊』「ビズラボコラム」（田口庸友）を一部改変

- 問 1. 下線部①について、宮城県仙台市の場合、「定住（夜間）人口」と「昼間人口」のどちらが多いですか。なぜそうだとあなたが考えるかの理由も併せて、述べてください（100 字以内）。
- 問 2. 下線部②について、文中で「関係人口」は「観光以上・移住未満の範囲で地域に関わりを持ち続ける人々」とされます。「関係人口」とは、こういう人々だという具体例をあなたなりに考えて、「観光以上・移住未満」という特徴を明確にしつつ、述べてください（100 字以内）。

- 問 3. 下線部③について、文中で言及された「モノ・カネ・場所・移動・スキル」など「シェアサービス」とは、具体的には、フリーマーケット、クラウドファンディング、民泊、カーシェア、家事代行などを指します。それでは、異なる地域のあいだにおける「人口のシェア」とは、具体的にはどのような活動が考えられますか。あなたなりに具体例を考えて、その活動を述べてください。ただし、どのような意味でその例が「人口のシェア」と言えるのかを、必ず説明してください（300 字以内）。
- 問 4. 下線部④について、「都市と地方は相互に不可欠」なのは、なぜでしょうか。あなたの考えを、具体的な理由を複数挙げながら、述べてください（300 字以内）。

*問題のねらい・解答例：

問題のねらい

受験生の、平易な論説文を読み取る力、指示に応じて論理的な文章を構成する力、さらに、それらをもとにして社会問題に対して、自身が持つ常識的な知識を活用して、どの程度論理的かつ共感的な想像力を働かせられるかを、考査する。

問 1.

解答例：仙台の人口は「定住（夜間）人口」よりも「昼間人口」のほうが多い。なぜなら、仙台市は東北地方最大の都市かつ宮城県の県庁所在地でもあるため、市内の民間企業や自治体事務所への郊外からの通勤者が多いから。

問 2.

解答例：東京など首都圏在住だが、ボランティア活動を目的として、東日本大震災の被災地を長年にわたって繰り返し訪れている人々。現地訪問の目的が遊びではなく地域貢献であるという点で、観光とは異なる。

問 3.

解答例：地方の産業における人手不足を「関係人口」が補うような例（農村体験やボランティア）、過疎地を商圏とする商売が「関係人口」からの売り上げに支えられて成立するような例、「関係人口」からの税収によって地方自治体の財政が改善する例（ふるさと納税はその一例）など。

問 4.

解答例：都市と地方は様々な面で相互に補完的な関係にあるから。例：地方が一次産品を生産し、都市が購入する。都市が観光客を送り出し、地方が受け入れる。地方が若年労働者を都市に供給する。都市から得られた税収が地方に移転される。など。